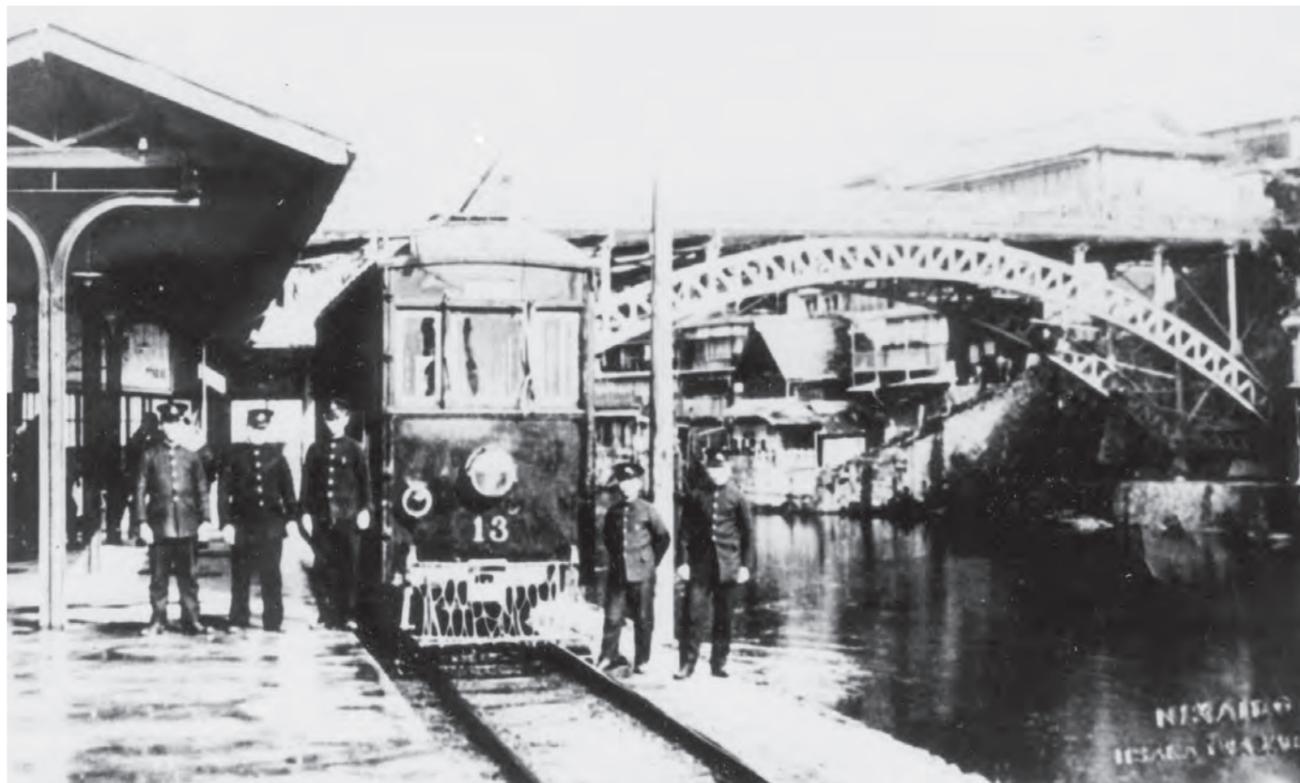


# ふくる通信

The Fukushima tourist information center communication

昭和二年三月二十三日飯坂温泉駅開通の様子



## 小特集 福島交通 飯坂線の歩み

発行／福島市観光案内所  
〒960-8031 福島県福島市栄町1-1  
TEL 024-531-6428  
FAX 024-531-8165  
URL <http://www.f-kankou.jp>  
E-mail [kankou@f-kankou.jp](mailto:kankou@f-kankou.jp)

こらんしょぶくしま 検索

検索

## GOOD TRAIN いい電 お楽しみ企画のご案内!

お問い合わせ 福島交通鉄道部 024-558-4611

今年で開業90周年を迎えた「いい電」では、ローカル電車ならではのお楽しみ企画が盛りだくさんです。この機会に、自分好みの企画をぜひご利用ください。

### いい電1日乗り放題の企画切符を発売中

#### 沿線満喫「1日フリーきっぷ」

この切符1枚で、大人1名+小学生1名+幼児2名がいい電内全線乗り降り自由で、飯坂温泉共同浴場入湯券が1枚付いてきます。

大人 1名

+

小学生 1名

+

幼児 2名

+

飯坂温泉共同浴場  
入湯券1名分

さらに!!

沿線16の店舗・施設での  
サービス特典付き

季節によって切符のデザインは4種!

乗り降り自由  
**800円**

※販売駅/各有人駅窓口で販売  
※発売当日限り有効で、前売りは行いません。  
使用開始後の払い戻しは行いません。  
※入湯券は大人1名用です。同伴の小人の入湯料は別途お支払いください。

#### 日帰り入湯券付「飯坂温泉湯ったり切符」

この切符はいい電1日乗り放題で、日帰り温泉入湯券、美術館の入館割引特典がついた、とてもお得な切符です。

●販売駅/飯坂電車 福島・桜水・飯坂温泉の各駅窓口(列車内での販売は行っていません)

いい電(飯坂電車)1日乗り放題  
乗車及び下車が当日限り自由となります。

+

飯坂温泉日帰り入湯無料券  
協賛温泉旅館・ホテル23軒のうち1軒入湯できます。

さらに!!

福島片岡鶴太郎美術庭園・  
飯坂明治大正ガラス美術館

大人 **1,000円**  
小人 **500円**

※発売当日限り有効で、前売りは行いません。使用開始後の払い戻しは行いません。

※各詳しい情報はホームページをご参照ください。<http://www.fukushima-koutu.co.jp/train/>

### いい電レンタサイクル

飯坂電車の終着駅「飯坂温泉駅」では、飯坂温泉内の観光スポットを手軽に巡っていただくため、「いい電 電動レンタサイクル」の貸出しを行っています。温泉情緒豊かな景観をじっくりお楽しみください!

貸出場所	飯坂温泉駅
営業時間	9:00~19:00
利用料金	4時間 300円

※ご利用の際には身分証明書(免許証・保険証等)をご持参ください。

●無料で貸出しを行っている「ももりんレンタサイクル(電動ではありません)」も併設されています。こちらもぜひご利用ください。

### 編集後記

- 現在の飯坂線が誕生するまでには深い歴史があることを知りました。福島の鉄道が模範とされていた時代があったとは驚きでした。歴史を学ぶことで「いい電」の魅力がまた1つ増えました。(福島のモモが大好きA)
- 私たちの日常生活に馴染んでいる「いい電」が、今のカタチになるまでには様々な歴史があることを学びました。さつそく23分の小旅行「いい電」の旅へ出かけてみようと思います。(円盤餃子大好きこK)
- 飯坂線が出るまでのドラマと、いかに地元で愛されているのかをうかが

### 飯坂電車に自転車を持ち込めるサイクルトレイン

飯坂電車では、朝夕の混雑時を除いた日中の時間帯に限り、電車への自転車の持ち込み(サイクルトレイン)を実施しています。飯坂線沿線へのお出かけや観光にご利用いただけます。※利用できる時間や駅、車両が決まっておりますのでご注意ください。

#### 利用可能時間

平日	上り	飯坂温泉発	10:55~15:05の電車
	下り	福島発	9:30~13:50の電車
土日祝日	上り	飯坂温泉発	10:55~15:05の電車
	下り	福島発	9:32~13:50の電車

#### 利用可能駅

乗降可: 福島駅・曾根田駅・岩代清水駅・笹谷駅・平野駅・花水坂駅・飯坂温泉駅

降車のみ可: 美術館図書館前駅・上松川駅・医王寺前駅

乗降不可: 泉駅・桜水駅

#### 持込料金

無料

### いい電貸切列車の運転

飯坂電車では、お客様のご希望の時間や内容で貸切列車を運転いたします。2両編成、座席定員88名の貸切列車では、過去に「車両基地見学ツアー」や「結婚式」が実施されました。この機会に、「いい電」を丸ごとお楽しみください!

#### 貸切列車料金表

乗車区間	料金
福島 ~ 飯坂温泉 片道	30,000円
福島 ~ 飯坂温泉 往復	60,000円
車庫内(桜水駅)での使用(1時間)	15,000円

- 貸切人員は、座席定員(88名)以内でお願いいたします。
- 貸切列車の運転ダイヤはお客様のご希望に応じますが、時間帯によってはダイヤが設定できない場合がございます。
- 料金表以外の設定については、お問い合わせください。
- 列車内にお手洗い設備はございません。

#### 貸切列車の利用法

- 電車を丸ごとファミリーやカップルで貸切。
- 電車が大好きなお子さん(お孫さん)への誕生日プレゼントに。
- 走る電車内で、会議や講演会、イベントを開催…等々。

## 市民に親しまれて九十年 「福島交通飯坂線」

秋保・鳴子とならび、奥州三名湯に数えられる飯坂温泉とJR福島駅を結んでいるのが「福島交通飯坂線」(以下、飯坂線)です。JR福島駅から終点飯坂温泉駅までの所要時間は二十三分で、全長九・二キロの短い鉄道です。路線には十二の駅があり、毎日の通勤や通学で多くの市民から利用され、生活に欠かすことのできない鉄道になっていきます。また、飯坂温泉を訪れる観光客の交通手段としても、大きな役割を果たしています。

福島盆地の中心に位置する信夫山の麓を抜け、飯坂温泉までを北西に走る飯坂線の沿線には、高度成長期に整備された住宅団地やお菓子屋などの商店が立ち並び、独特の生活感を漂わせています。また、平野駅周辺では、路線と隣接する住宅専用の小さな踏切「マイ踏切」がいくつもあり、ローカル線ならではの地域性を垣間見ることが出来ます。飯坂温泉が近くなるとリンゴやモモの果樹畑が次々と現れ、春には美しい花々、夏と秋にはたわわに実った果実を車窓から望むことができ、くだもの王国と称される福島を感じることが出来るのは飯坂線の大きな魅力の一つでもあります。

日々、乗客の安全を守りながら運行を続ける飯坂線ですが、長い歴史をひもとくと自然災害による運休を余儀なくされたことが何度かありました。その度に頑丈に作り替えられ、安全を極めてきました。そんな飯坂線は、今年開業九十周年を迎えました。そんな飯坂市民の生活や観光の重要路線として大正、昭和、平成と時代が変わっても愛され続けています。

今回は、今日の飯坂線の歴史をひもとくには重要な「信達軌道」の歴史とともに、福島交通飯坂線のあゆみを紹介していきます。



「ふくる」とは…「福島に来る」と「福が来る」を掛け合わせた言葉です。福島市にお越しくださった皆さまに「福」が「来る」事を祈るとともに、福島市の魅力をたくさん知っていただきたいと願います。

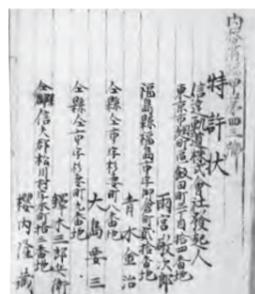
小特集

# 福島交通飯坂線の歩み

## 福島駅と飯坂温泉を結ぶ二つの路線計画

明治二十年十二月、日本鉄道(現・JR東北本線)の福島駅が開業すると、さまざまな有力者により福島駅と飯坂温泉を結ぶ鉄道が計画されました。由緒ある飯坂温泉の客輸送を当て込んでの計画でしたが、資金不足などによりいざいざも実現には至りませんでした。

そのような中、明治三十九年の暮れに、実業家として知られる雨宮敬次郎と地元信夫・伊達両郡の有志が福島公会堂に集まり、信達軽便軌道敷設(信夫郡と伊達郡を結ぶこと)から「信達」と名付けられた。かかる会合が持たれました。この会合で話題になった予定路線は六つの路線で、これらの路線すべてが完成された暁には福島盆



明治40年7月信達軌道株式会社の設立特許状

地全体に大軽便鉄道網が完成する壮大な計画でした。その中には福島駅と飯坂温泉間を、①福島・瀬上・長岡(現・伊達市)・湯野・飯坂線、②福島・清水・飯坂線の二路線で結ぶ計画が含まれており、後にいずれも実現の道を歩むことから、地域住民の期待がいかに高かったかということを知ることが出来ます。

### 福島駅と飯坂温泉間に初めて鉄道が開通

信達軌道株式会社が設立されたことにより、福島軌道で最初に運行が開始された路線は、福島駅前から東北本線の東側を北進し、長岡村(現・伊達市)で西に方向を変えて飯坂温泉(湯野が終点)に至る軽便軌道でした。信達軌道敷設の中でこの路線が最初に開業した理由は、明治四十一年に、**奥州六県連合会の共進会**が福島市で開催されることが決定し



軽便が走る飯坂線(軽便と東北本線が立体交差している)現在のJR伊達駅付近

ためです。突貫工事により軌道敷設が進められ、共進会ギリギリとなる四月十四日に開業にこぎ着けることができました。その後、信達軌道株式会社は会社合併や分離、事業の継承により、梁川や掛田といった阿武隈川の東側地域にも軌道網を広げていくこととなります。(※五頁の路線図等参照)

### 福島交通飯坂線の敷設と電化への流れ

大正七年になると福島・清水・飯坂を結ぶ「飯坂軌道」が計画され、その後「飯坂軌道株式会社」を設立し大正十年八月に許可されました。同年十月には「福島飯坂電気軌道株式会社」と改称し、福島交通飯



大正13年開通当時現在の美術館図書館前駅付近(旧福島高商前)を走る飯坂電車

坂線の開業へ向けての準備が進められていきました。

### 人々の期待を背負った福島交通飯坂線の開通

開業に向けては、福島市から蒸気動力では反対の申入れを受け、電気動力へ変更する計画が進められていきました。大正十一年五月十九日に、信達軌道走る軽便の飛火が鎌田村本内の蚕種製業者の蚕室に降りかかり、四十六戸百三十一棟が焼失する大火災「本内大火」が発生したのです。怒った住民は軌道に座り込み十八日間運転休止に追い込みました。この火災がきっかけとなり電化への変更が一気に加速していきました。

### 福島電気鉄道株式会社との合併による会社発展

飯坂温泉を目指し、福島駅前から北西にほぼ直線で走る「(1)飯坂電車株式会社(現・福島交通飯坂線)」と、市街地を通り長岡〜飯坂間の東側を走る「(2)福

島電気鉄道株式会社(大正十四年に信達軌道が当該社名に改称)。二つの会社は、飯坂温泉への誘客で二時競い合ったこともありましたが、昭和二年十月一日、両社が合併し「福島電気鉄道株式会社」となりました。これにより、それまで「(1)飯坂電車株式会社」が運営していた路線を飯坂西線、「(2)福島電気鉄道株式会社」が運営していた路線を飯坂東線と呼ぶようになりました。この合併により、東北一の車

### 戦時中の様子

両・軌道・設備を有するまでになり、東北の私鉄の模範とまで称されるようになったのです。さらに、電車部門の強化と国鉄との接続の円滑化を図るため、昭和十七年十二月三日に飯坂西線の福島駅構内乗り入れが実現、現在の路線となりました。この年の輸送人員は四百九十三万人。この数字は、大正十四年の二から三倍の数字となっています。

戦火がますます拡大した昭和十八年八月十二日、旅客自動車運輸事業統合の国策により、県第一区(福島地方)における同事業はすべて、統合主体である「福島電気鉄道株式会社」に統合されました。国内の鉄道・バス事業は、この時代、国策に沿って国有化や合併統合が相つぎ、戦時輸送体制が強化に押し進められました。さらに、昭和十九年三月十五

### 時代の流れ

忌わしい戦争が終わり日本が目覚ましい発展を遂げていた昭和三十七年七月、福島電気鉄道株式会社はバス事業強化のため福島交通株式会社へと改称しました。高度成長期に入ると自動車の普及が進み、飯坂東線の路面電車の併

### 今日の福島交通飯坂線

東日本に大きな被害をもたらした平成元年八月の台風十三号では、泉駅と上松川駅間にかかる橋梁橋脚が流され、不通となる事態が発生しました。通勤や通学で利用している多くの市民が松川にかかる車道の橋を渡り、川向こうに渡る車両まで歩くという状況が続きました。半年にもわたる不通でしたが、利用者の安全を守り自然災害にも負けない頑丈な橋が松川にかけられ、完全に復旧を遂げることができました。

に大きな被害が生じたが、不眠不休の復旧作業が行われ、被災三県の鉄道の中では最も早く運転を再開しました。この運転再開は一つの希望の光となり、ガソリン不足によるマイカーからの切り替えや食料の買い出しなど、多くの市民の足となり混乱時の生活を支えました。

震災後には貸切電車の運行をはじめ、車両を利用した結婚式や車両基地見学ツアー、ワイントレインなどが行われ、より身近で親しみやすい鉄道「いい電」へ変化しています。まだまだ復興の途中ですが、県都福島市の暮らし、観光の重要路線として今日も福島交通飯坂線は元気に走り続けています。



大正14年の福島駅前通り(中央が福島駅、右側には福島屋旅館。よく見ると旅館の間に頭を出している電車が見える。ここが飯坂電車の出発点。)

十九年三月十五



別れを惜しまれた路面電車

用軌道が交通障害を起こすようになつていきました。一部の区間が廃止されバスが代わって運行されるようになったことがきっかけとなり、路面電車は、昭和四十六年四月十二日全面廃止となりました。長年にわたって信達の地を走り続け、「チンチン電車」として親しまれてきた路面電車は惜しまれつつ姿を消したのです。その後は、飯坂西線が残り、輸送力の強化が進められていきました。沿線の駅周辺には新たな住宅地等が整備され、現在の景観が築かれていきました。



朝の利用者で賑わう現在の福島交通飯坂線福島駅ホーム

福島交通飯坂線関連年表	
明治20年12.15 (1887)	●現在のJR東北本線である郡山～塩竈(後の塩釜線塩釜埠頭、廃止)間が、日本鉄道により延伸開業。福島駅が開業
明治40年 8. 1 (1907)	●信達軌道株式会社(旧)が設立
明治41年 4.14 (1908)	●後に飯坂東線となる、信達軌道の福島停車場(後の福島駅前)～十綱(後の湯野町)間と、事務所前(後の聖光学院前)～長岡停車場(後の伊達駅前)間が開業
大正 6年 9. 6 (1917)	●大日本軌道福島支社の路線を引き継ぐ新会社として信達軌道株式会社(新)が設立
12.20	●大日本軌道から信達軌道株式会社(新)への軌道譲渡が認可
大正 7年 1. 8 (1918)	●信達軌道が大日本軌道福島支社の軌道事業を継承
大正10年 8. 9 (1921)	●飯坂軌道株式会社が設立
10.15	●飯坂軌道株式会社が福島飯坂電気軌道株式会社に改称(本社:福島市置賜町9番地 飯坂軌道客車5両・貨物4両)
大正11年 3.15 (1922)	●福島飯坂電気軌道の軌間1067mm、電気動力への変更が認可される
5.19	●信達軌道の蒸気機関車からの飛び火により鎌田村(現・福島市)で火災が発生。46戸全焼。これを受けて沿線住民が信達軌道の運行を妨害し、福島駅前～長岡間が運休
6. 7	●信達軌道福島駅前～長岡間が運転再開
大正13年 4.13 (1924)	●後の飯坂西線(現・飯坂線)となる福島飯坂電気軌道の福島(初代)～飯坂(現・花水坂)間が開業(5.6哩)
10.23	●福島飯坂電気軌道株式会社が飯坂電車株式会社に改称(本社:信夫郡清水村大字泉字早稲田2番地)
大正14年10.16 (1925)	●信達軌道の電化、改軌計画が認可される
12.24	●信達軌道株式会社が福島電気鉄道株式会社に改称
大正15年 4. 6 (1926)	●福島電気鉄道の福島駅前～長岡分岐点～飯坂間が電化
11. 6	●福島電気鉄道の長岡分岐点～保原間が電化
昭和2年 3.23 (1927)	●飯坂電車の飯坂駅が花水坂駅に改称され、花水坂～飯坂温泉間が延伸開業し、現在の飯坂線が全通(運転開始5.9哩)
10. 1	●福島電気鉄道株式会社が飯坂電車株式会社を合併
昭和15年 3. 4 (1940)	●泉駅開業
昭和17年 12. 3 (1942)	●飯坂西線の福島～森合間が現行ルートに変更。飯坂西線が福島駅構内乗入営業開始
昭和20年 3. 1 (1945)	●飯坂西線が軌道法に基づく軌道から地方鉄道法に基づく地方鉄道に変更
昭和37年 7.12 (1962)	●福島電気鉄道株式会社が福島交通株式会社(初代)に改称
昭和38年 6 (1963)	●飯坂西線用の2車体連接式新型電車が完成
昭和39年 1.10 (1964)	●上松川駅開業
昭和46年 4.12 (1971)	●飯坂東線、保原線、梁川線、掛田線が廃止。軌道線が全廃となる
昭和50年 8.20 (1975)	●笹谷～平野間に桜水駅が開業し、車両基地が曾根田駅から桜水駅に移転
昭和56年 11.15 (1981)	●貨物営業が廃止
昭和57年 12.21 (1982)	●飯坂温泉駅が現在地に移転
昭和61年 7. 9 (1986)	●交通事業を引き継ぐ新会社として、新福島交通が設立
10. 1	●福島交通が交通事業を新福島交通に譲渡
12.12	●新福島交通が福島交通(二代目)に改称
昭和62年 9.10 (1987)	●福島駅の新ホームが供用開始
平成元年 8. 6 (1989)	●台風13号による大雨により上松川橋梁が破壊し、泉～上松川間が不通となる。8月15日に橋梁を架けて運転開始
平成 2年 3. 1 (1990)	●上松川橋梁が復旧し、全線で運転を再開
平成22年 12.20 (2010)	●飯坂温泉新駅舎落成
平成23年 3.11 (2011)	●東日本大震災により全線運休。3月13日14時に運転再開

※年代記の太字の部分が、福島交通飯坂線に直接関わる内容です。

# 福島交通飯坂線関連 福島近郊路線図



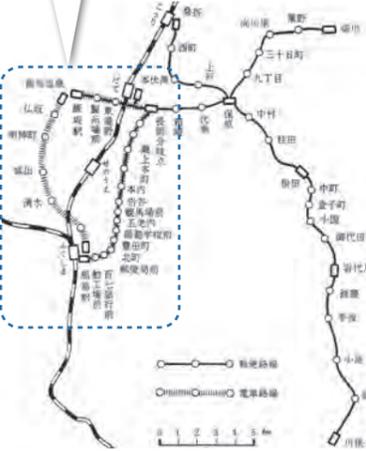
この路線図は、1971年4月に「福島交通飯坂東線」が廃止になる直前のものです。そのため、下記の「飯坂軌道および福島電気鉄道運行路線図」の駅名とは一致いたしません。また、福島交通飯坂東線の駅の内、「本内」「瀬上荒町」「河原町」「田町」の各駅は、位置不確定または完全に分かっておりません。

## 壮大な計画だった「信達軌道」

信達軌道株式会社の設立により、明治41年の4月に福島駅前と飯坂温泉までが軽便軌道で結ばれて以降、新たな路線が次々と信達平野に開業されていきました。

- 明治41年7月には、後に保原線となる、信達軌道の長岡(後の長岡分岐点)～保原間が開業。
- 明治43年6月には、後に梁川線となる、大日本軌道福島支社の保原～梁川間が開業。
- 明治44年4月には、後に掛田線となる、大日本軌道福島支社の保原～掛田間が開業。
- 大正4年12月には、大日本軌道福島支社の掛田～川俣間が延伸開業。
- 大正11年4月には、信達軌道の保原～桑折間(桑折線)が開業。

現在の福島市・伊達市・桑折町・川俣町まで網羅されており、それぞれの地域経済の発展に大きな功績を残したことを伺い知ることができます。



飯坂軌道および福島電気鉄道運行路線図(大正15年) ※「福島市史」近代Ⅱ 第5巻より

# 福島交通飯坂線開業に関する“とっておき情報”

## とっておき No.1

大正13年4月13日に開業した「福島交通飯坂線」は、市内で初めて電気動力で運行された列車であるとともに、飯坂温泉への観光客輸送増加も期待され、沿線住民はもとより全市民の関心はかなり高かったと思われます。その裏付けともいえる当時の新聞紙面について、電気動力導入に向けての起工式や飯坂線の誕生、飯坂温泉までの延長に関する記事をご紹介しますので、当時の雰囲気が少しでも伝われば幸いです。

## 蒸気軌道から電気軌道へ 起工式を開催

【大正11年12月6日 福島民報】

前略…報告の要旨は左の如くであった。

当社はもと軌道条例により簡易なる蒸気軌道建設を目的として出願特許を得たが時代の要求は遂に電気軌道に移りたるをもって設計を変更し、福島駅前を起点として飯坂に至る6マイルを第一期工事とし、更に飯坂中野間を第二期線とした。本線にして完成せば地方股販と産業の発展を誘致し前途益々有望たるに至るべきは勿論である。第一期工事の概要を摘記せば本軌道は全線殆ど道路に敷設し専用軌道敷設は福島高商前より清水村字道下に至る49チェーンの跨線と佛坂13チェーンと松川小川及橋本川に専用鉄橋を架設するに過ぎない。…泉及び明神町に待機所を設け沿道の要所に停車所を設置し起終両点より30分毎に発車せしむる計画である電気軌道の方式は直流架空単線式として変電所を清水村地内に置く…主動客車は40人乗り貨車は各5トン積みとする。第一期工積算の概要を述べる土工費8万6千円、橋梁費8万3千円軌道費12万2千6百円、建築費1万3千円、電線費3万2千円、通信設備費1千8百円、変電所費3万4千2百円、車両費6万7千円、車両修繕設備費7千円、その他の予備費を合わせ49万7千円である。

## 人々の期待を背負い「福島交通飯坂線」がいよいよ開業

【大正13年4月13日 福島民報】

待ちに待たれた福島電車今日開通す 東北一のラジウム温泉地 飯坂、湯野に色彩増す

【大正13年4月14日 福島民報】

初乗の記 開通第一日目の雑感いろいろ 発着毎に両駅は見物の黒山 福島飯坂間の電車は、昨13日から「こんどはうそでなく」開通した。福島からは午前6時3分発を朝一番として、7時3分、8時3分、9時3分、10時3分、という具合1時間置きに3分という時間を標準として夜の9時3分までの16回出る。又飯坂からは朝の5時57分を最初として6時57分、7時57分、8時57分という具合に夜の8時57分発の最終車まで矢張り1時間置きに16回福島へ来ることに便宜だ。

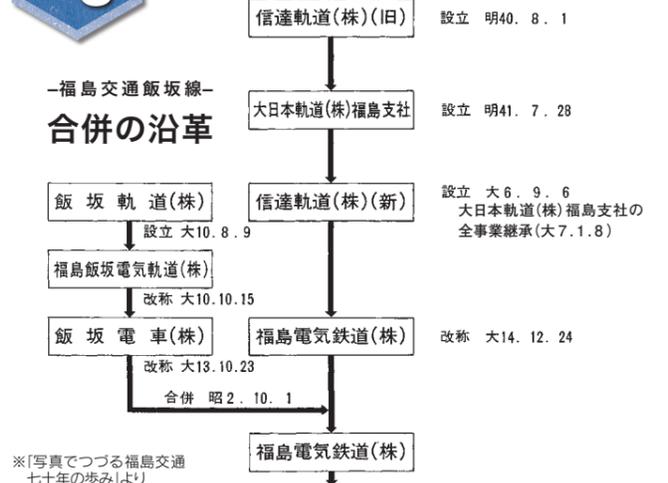
車台は今のところ2台だけ運転していて、清水村地内車庫前の停留所で交換になる。福島駅の電車停車場(?)は福島屋旅館の角に立って、停車場といっても1間四方もないマッチ箱のような切符売場が一つ立っているきりだ。また駅員の任命もなに相で、本社会計の高田氏が背広を着て切符売をしていた。乗客の待合所は福島屋旅館の一部を借りて堂々たるもの(切符売場に比して)が出来ている。新しい卓子(テーブル)、新しい腰掛、みな気持がよい。福島のものに比べると、飯坂停車場は、立派なものだ。ほんもの停車場だ。電車が走り出すと、近所の腕白どもがマラソンのつもりで走り出



一部が乗客の待合所となっていた「福島屋旅館」

## とっておき No.3

福島交通飯坂線は、開業までいくつかの会社の設立や分離、事業の継承が行われてきました。次の会社合併の沿革をご覧くださいと分かりやすいと思います。



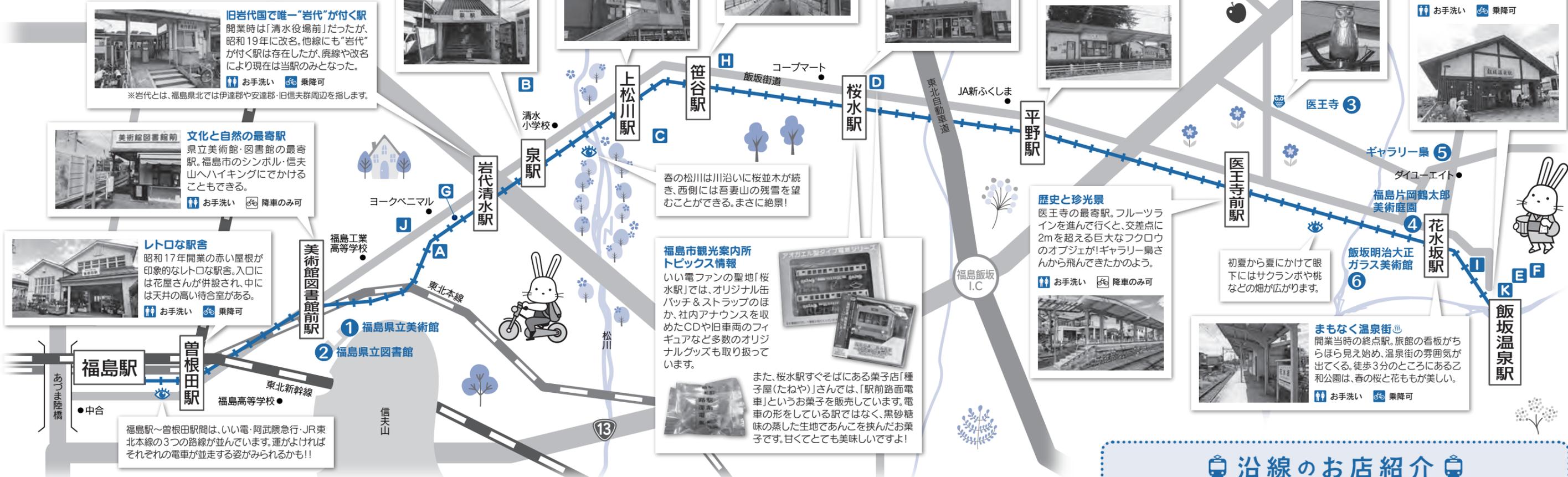
※「写真でつづる福島交通七十年の歩み」より

## とっておき No.2

大正13年4月13日の開業当日、民報新聞に掲載された全面広告です。この紙面からも飯坂温泉の盛り上がりを読み取ることができます。



# GOOD TRAIN 沿線見どころマップ



## 見どころ案内

…下車しておでかけする見どころ  
…車窓から眺める見どころ

### ① 福島県立美術館

信夫山の麓に位置し、主に20世紀アメリカ画家の作品やフランス印象派の絵画のほか、本県出身の版画家、斎藤清の作品を収蔵・展示しています。

- 開館時間 / 9:30～17:00(最終入館16:30)
- 休館日 / 月曜(祝日を除く)、祝日の翌日(土日にあたる場合は除く)、年末年始
- 観覧料 / [常設展] 一般・大学生270円、高校生以下無料
- 企画展 / 展覧会によって異なります。
- 交通 / 「美術館図書館前駅」下車、徒歩2分



### ② 福島県立図書館

県立美術館に併設されています。郷土史関係の資料はもちろんのこと、「東日本大震災福島県復興ライブラリー」が設置されています。

- 開館時間 / [平日] 9:30～19:00 [土・日・祝] 9:30～17:30
- 休館日 / 要問合せ
- 交通 / 「美術館図書館前駅」下車、徒歩2分



### ③ 医王寺

平安末期、この土地を治めていた佐藤一族の菩提寺。源義経の忠臣、佐藤継信と忠信兄弟の墓があります。元禄年間には、松尾芭蕉が訪れています。

- 拝観時間 / 8:30～17:00 (12月～3月は16:30)
- 休拝日 / 12月29日～1月4日
- 拝観料 / 大人300円、中学・高校生200円
- 交通 / 「医王寺前駅」下車、徒歩15分



### ④ 福島片岡鶴太郎美術庭園

タレントであり、芸術家としても活躍している片岡鶴太郎氏の絵画や陶器・屏風などの作品が展示されています。

- 開館時間 / 9:00～17:00 (1月～3月は16:00まで)
- 休館日 / 年中無休
- 観覧料 / 一般・大学生 950円、高校生700円、小学生以下 無料
- 交通 / 「花水坂駅」下車、徒歩1分



### ⑤ ギャラリー鼻

4万点を越えるフクロウグッズのコレクションや日本の名作版画が展示されています。

- 開館時間 / 9:00～16:00
- 休館日 / 日曜、祝日、新聞休刊日
- 交通 / 「花水坂駅」下車、徒歩8分

### ⑥ 飯坂明治大正ガラス美術館

明治・大正期の貴重な和ガラスを約3,000点收藏し、常時1,000点を展示しております。

- 開館時間 / 9:00～17:00 (土・日曜、祝日のみ営業)
- 観覧料 / 一般700円
- 交通 / 「花水坂駅」下車、徒歩10分



## 沿線のお店紹介

### スイーツ

**A 銀嶺食品** (岩代清水駅から徒歩10分)  
国産小麦や雑穀を原料とする体にやさしい「地パン」が有名。  
☎ 024-557-0341

**B café mimo** (泉駅から徒歩7分)  
住宅街の中にある隠れ家的カフェ。  
☎ 024-558-9126

**C みずいろぱん** (笹谷駅から徒歩5分)  
リーズナブルで家庭的なパン屋さん。メロンパンが人気。  
☎ 024-558-3970

**D 種子屋** (桜水駅から徒歩2分)  
厳選した食材で作られる和・洋菓子はどれも絶品。  
☎ 024-557-8343

**E わたなべパン店** (飯坂温泉駅から徒歩3分)  
ラヂウム玉子が乗った「ラヂウム玉子パン」が名物。昭和27年創業の老舗。  
☎ 024-542-3525

**F 温café** (飯坂温泉駅から徒歩5分)  
鯖湖湯向かいにあるレトロな雰囲気のカフェ。ランチメニューも楽しむことができる。  
☎ 024-542-3159

### 雑貨屋

**G Select furniture shop BLOW** (岩代清水駅から徒歩3分)  
国内外のユーズド家具や雑貨のセレクトショップ。  
☎ 024-557-2340

**H lean** (笹谷駅から徒歩2分)  
雑貨やオーダー家具など、トータルライフスタイルをご提案。  
☎ 024-597-6388

**I PUKKY** (花水坂駅から徒歩3分)  
ログハウス風のお店には、たくさんのロシア雑貨がそろっています。  
☎ 024-563-3230

### ラーメン

**J 煮豚亭 砂馬**  
昼はとんこつ、夜はみそ専門となる人気店。  
☎ 024-557-8181

**K 麺飯道家 万来**  
飯坂ラーメンと餃子がおいしいお店。  
☎ 024-542-2969